

特集

匠の伝承

手術を極めたいあなたへ

企画にあたって

手術に対する特集は、その手技に対する解説や準備および周術期の注意点などを解説するのが一般的です。確かに読者は、エキスパートの手技およびコツを読み取り、迎え撃つ手術に備えることが一般的と考えます。そのような企画を求めている読者には残念に思われるとは思いますが、本企画は「手術の心得」を特集したものとなっています。

タイトルの「匠の伝承」ですが、匠とは本来、優れた技術を有した職人を指す言葉で、大工さんなどの木工職人に対して使われる言葉です。手術を行うわれわれ泌尿器外科医もある意味職人のようなもので、われわれが若い頃は「先輩の背中を見て技術を勝ち取れ」的な指導を受けておりました。時代は変わりビデオやDVDの時代となり、手術の手順はどこでも誰でも見ることができる時代となっています。

こんな時代であっても、小職は手術見学をすることは非常に重要であると考えています。特に腹腔鏡などの内視鏡手術は、カメラによる内視鏡の術野を中心に撮影されておりますが、どの位置にポートを置き、お互いにバッティングしないようにするためにどのような工夫が成されているのか、また鉗子はどのように持ち手技を行っているかなど、手術中の術野の撮影のみではわからないことを、その現場で確認することができます。

このように本企画は、単に手術の手技を解説するものでなく、その道のレジェンドや現役のエキスパートの先生方に、手術における心得を解説していただいております。まず一読のうえ、それぞれの手術の匠の心得を確認していただければ幸いです。その後DVDによる手術手技を観る前に読むことにより、より臨場感のあるものとなるでしょうし、実際の手術前にもぜひ読んでいただきたいと思います。本特集のタイトルのように、お読みになった先生に「匠の技」が伝承されることを祈っております。

日本医科大学医学部
泌尿器科学講座

近藤幸尋